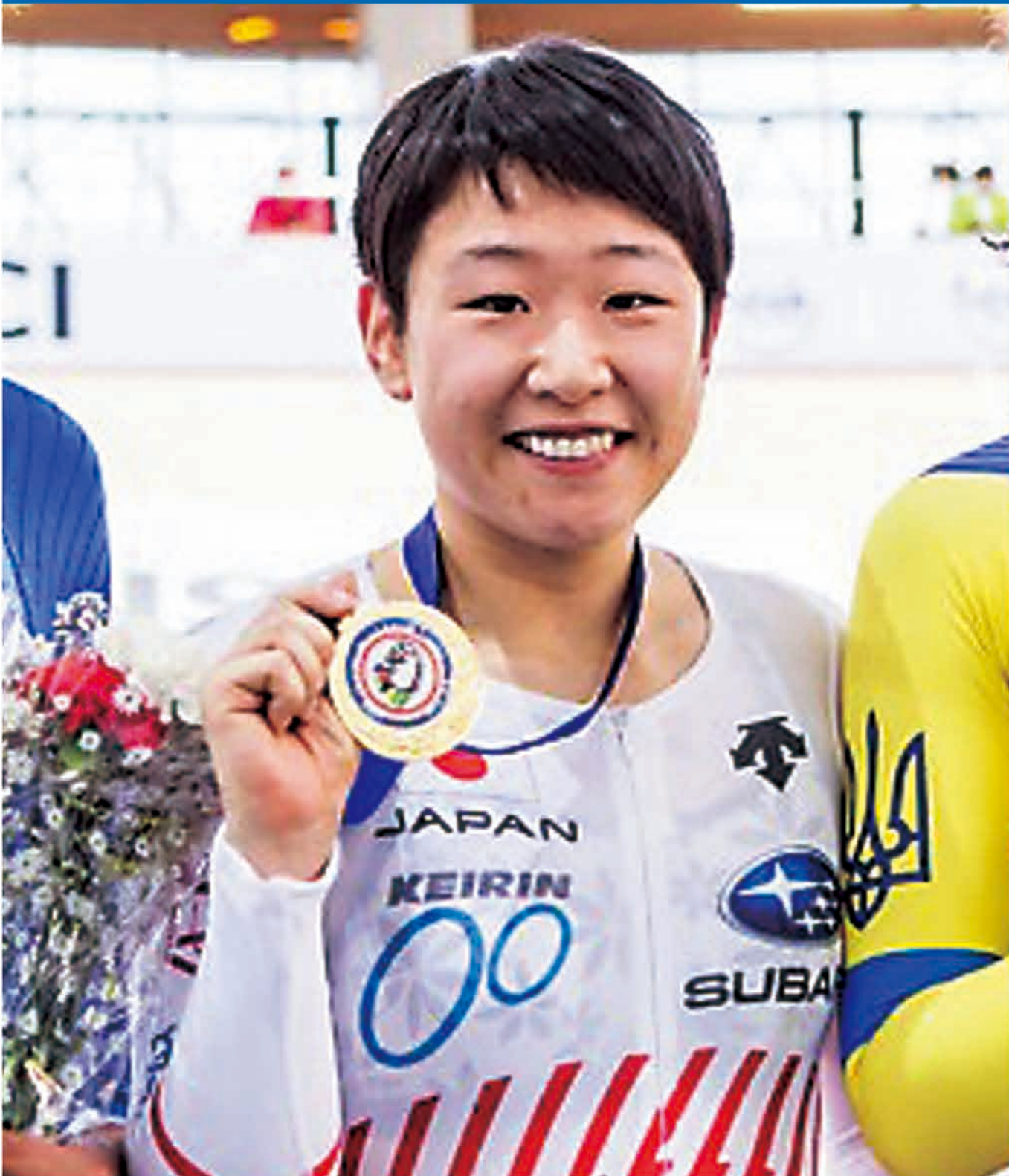


日本人初の快挙！

筑スポ

サイクリング部・梶原 W杯優勝 UCIワールドトラックカップ 女子オムニウム 第3戦・第4戦



筑波大学サイクリング部の梶原悠未選手(体育2年・埼玉・筑波大学附属坂戸高)が、12月3日にカナダ・ミルトンで行われたUCIワールドトラックカップ第3戦において、男女を通じて日本人初となる金メダルに輝いた。さらに、12月10日にチリ・サンティアゴで行われた第4戦でも金メダルを獲得し、二大会連続で金メダルを手にした。今回は、これらの栄誉に輝いた梶原選手にお話を伺うことができた。

まず、ワールドカップで優勝した率直な感想について「とても嬉しかったです。また、ここまで育ててくれた一番に支え続けてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいになりました。」と語った。そして、日本人初となる優勝という件については、小学校のころからオリンピックでの金メダル獲得を目指していたと話したうえで、「その(金メダル獲得)ための通過点として、ワールドカップ、世界選手権で表彰台の常連選手になることが目標でした。今大会では、二大会連続で金メダルを獲得することができ、夢に向けたスタートラインに立つことができました。」と達成感を感じているようだった。しかし、梶原選手はオリンピックに目を向けており、「日本人では誰も成し遂げたことがない、オムニウム種目のオリンピック優勝」という快挙を挙げるためには、歴史を塗り替える続け、進化し続けなければならない。これからも、多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、人々に夢と感動を与えられる走りを目指し、世界の頂点に挑戦していきたい。」と今後の意気込みを語ってくれた。

昨年、ワールドカップ、世界選手権に日本代表として出場していた梶原選手。世界のトップ選手と戦う中で、自身との圧倒的なスピード差、パワーの違いに驚いたという。そのため今回の二大会では、「その差を埋めるため、課題解決に向けたトレーニングに取り組み、今大会では、自身のスピード持久力を活かし、自信をもって戦うことができました。世界の選手を相手に戦うことで、自身の成長を明確に実感できるため、



疾走

JCF

筑波スポーツ

平成30年2月16日(金)
第172号

題字 中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)

後10月からのシーズンでは、東京オリンピックに向けた準備が本格化するため、1戦1戦を大切に、つても良い順位を目指して走ります。そして、2020年の東京オリンピックでは、オムニウムマディソン、4kmチームパシフィックの全3種目に日本代表として出場し、センタースタートに力を出し、この後もさらなる注目を浴びたい。」と、(松本 樹)



杉浦佑成

筑波からプロへ 羽ばたく選手たち ～男子バスケットボール・蹴球～

自分のチームが優勝したという実感がなかった。自分がそこに貢献したかと言われると、あまりないと思われる。だから関東リーグ優勝や、インカレ優勝の景色を内側から見たいと思った」と話してくれた。

公式戦に勝利するたびに喜びを噛みしめ、辛いときも優勝の瞬間を想像して取り組む。堀田さんの4年間は、まさにチームのために奮闘した4年間だっただろう。堀田さんの主務として妥協せず常に現状を良くしていくとする姿勢は、チームの躍進に大きく貢献していたに違いない。

（舩本暖菜）

Award を発表し、ハーフタイムにその表彰式を実施した。さらに、中野選手は今大会においてゴールを決めており、得点主にも輝いた。天皇杯においてリーグチームを次々と撃破する姿に興奮を覚えた人も多かったのではないだろうか。2018年シーズンは「凌駕」を掲げ、さらなる活躍が期待される筑波大学蹴球部。今年も圧倒的強さを見せてくれることを期待したい。

（舩本暖菜）

蹴球部

選手の裏側で

天皇杯での躍進、関東大学サッカーリーグ優勝とか、昨年大学サッカー界でも注目浴びたといっても過言ではない筑波大学蹴球部。しかし、その蹴球部の活躍になくはならなかった存在がいる。それは主務といふ仕事である。今回は、蹴球部の元主務・堀田雄一郎さん体育4年、香川・高松島にお話を伺う。

1年生のときから部の管理運営に携わることに興味があり、3年生のときには副務を務めた堀田さん。蹴球部では2人の副務のうちどちらかが主務になるが、これまでの主務の多忙さを見ていたために、中々決まらなかったという。その上で主務になることを決めたきっかけについて伺うと、「自分が主務になる前の年にインカレで優勝しており、メンバーに残っていたので、次も日本一を目指せるようなチームだった。大

ない立場。裏でチームを支えている立ち位置でありながら、仕事では先頭に立ち、引つ張っていく。先頭でも引つ張るし、一番うしろからも支える存在だと思う。」と話してくれた。

毎週行われるリーグ戦で1試合合1試合勝つ度に本当に嬉しかたと笑顔で話してくれたが、やはり辛いで思ったこともあったように思ふ。でも拘束時間が長かったことが一番辛かったそう。TOPチームの練習を見た後に、自分も選手として練習して、単純にグラウンドの拘束時間が2倍だったという。さらにその前後に仕事を行うこともあり、大会が重なる夏は特に多忙だったようだ。

主務としても選手としても手を抜くことなく取り組んでいた堀田さん。その原動力となっていたものについてお聞きしたところ、二昨年、インカレで優勝したとき、応援の部員とし

「『ピッチの内外で日本一を獲得』。主務として活動していく中で、堀田さんはこの目標を常に意識していた。今の部員の状態や自分の行動を常に照らし合わせ日本に常々ほしいのか判断し、妥協だけはしないようにしていたという。また、主務やマネージャーはチームにとって当たり前を作る仕事であると言いは、基本的には人の目につか

自分のチームが優勝したという実感がなかった。自分がそこに貢献したかと言われたら、あまりなかった。だから関東リーグ優勝や、インカレ優勝の景色を内側から見たいと思った」と話していた。

公式戦に勝利するたびに喜びを噛みしめ、辛くとも優勝の瞬間を想像して取り組む。堀田さんの4年間は、まさにチームのために奮闘した4年間だっただろう。堀田さんの主務として妥協せずに常に現状を良くしていくとする姿勢は、チームの躍進に大きく貢献していたに違いない。

（外本暖菜）

体操部・ラート 魅力は「感覚」



松浦佑希

ラートという競技をご存知だろうか？ラートはドイツ発祥で、競技者の身長より大きな2本のリングを自在に操りパフォーマンスする体操の競技である。今回は、筑波大学体操部に所属する4人のラート選手にインタビューを行った。

取材したのは、松浦佑希選手(博士2年、埼玉・聖望学園高)、森本修多選手(修士1年、兵庫・加古川東高)、瓜兼沙里選手(体育3年、埼玉・浦和第一女子高)、富名腰真子選手(体育3年、沖縄・球陽高)の4名。出身も学年もばらばらな4人に共通しているのは、ラートは大学入学後に始めたという点である。付け加えると謙虚で心遣いのある人柄も共通していた。

驚いたことに体操部の練習時間内に個人でラートを練習する時間は無い。平日6時9時と土曜の午前の部活の時間には全員でのパフォーマンス練習を行うため、ラートは自分で時間を見つけてやりたいたが、自主的に練習をする。そのスタイルで入学から8年ラートを続けてきた松浦選手は、「16年間続けた体操競技はコーチの指導が絶対の世界だったが、ラートは自分で試行錯誤して競技に向き合うことができる」と話す。自由度が高い分難しい面もあるように思えるが、4人とも好きや楽しいという気持ちで先行している印象があった。



富名腰真子

あるように思えるが、4人とも好きや楽しいという気持ちで先行している印象があった。ラートは新しい感覚をくれるのだという。「体操と似ているが斜転は未知の感覚だ」と瓜兼選手。森本選手たちは「体がうまくいった時の感覚、まるでサーカスでも見ている気分になる。また、4人に共通しているようにラートは大学からでも始めることができる。」「競技として毎週色々な感覚に出会う新鮮さがあるし、子供から大人までできる生涯スポーツ」と富名腰選手。ラートはなかなか馴染みのないスポーツではあるが、筑波大学ではスポーツデーで体操部が体験会を開いていたり、毎年12月にはつくばカピオで全日本ラート選手権大会が開催される。つくばにいるからには是非一度ラートに触れてみたい。

昨年の全日本ラート選手権大会では、森本選手が直転優勝、松浦選手が斜転と跳躍優勝、総合2位、富名腰選手は斜転3位、総合3位、瓜兼選手は直転と跳躍4位の好成績。森本選手、松浦選手、富名腰選手の3名は今年5月スイスで開催される世界選手権が控えている。是非それぞれの魅力をラートに乗せて発揮してほしい。(篠原美奈)

結果一覽

【剣道部】 第36回全日本女子学生剣道優勝大会 日時：11月12日(日) 会場：春日井市総合体育館 筑波大学 第3位		【柔道部】 平成29年度講道館杯 全日本柔道体重別選手権大会 日時：11月11日(土)～12日(日) 会場：公益社団法人全日本柔道連盟 男子 66kg級 田川兼三(体育3) 準優勝 73kg級 野上康太郎(体育1) 準優勝 81kg級 佐々木健志(体育3) 優勝 グラドスラム・東京2017 日時：12月2日(土)～3日(日) 会場：東京体育館 女子 63kg級 津金恵(体育4) 第3位		【女子ソフトボール部】 第17回関東学生 女子ソフトボール秋季リーグ 日時：11月7日(火)～9日(木) 会場：東松山市駒形公園 ソフトボール場 筑波大32●新潟学短期大 筑波大17●城西国際大 筑波大56●順天堂大 筑波大119●文教大 筑波大112●関東学院大 最終結果 第5位		【男子ハンドボール部】 平成29年度 全日本学生ハンドボール選手権大会 日時：11月2日(木)～9日(木) 会場：いしかわ総合スポーツセンター 筑波大30●中央大 筑波大32●順天堂大 筑波大26●福岡大 筑波大26●日本大 筑波大23●国士館大 最終結果 準優勝		【女子ハンドボール部】 平成29年度 全日本学生ハンドボール選手権大会 日時：11月3日(金)～7日(火) 会場：いしかわ総合スポーツセンター 筑波大36●東海学園大 筑波大33●富士大 筑波大33●国士館大 筑波大17●大阪教育大 最終結果 第3位 優秀選手賞 青鹿子 体育2		【オリエンテーリング部】 2017年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 日時：11月11日(土) 会場：大垣市上石津町時地区周辺 スプリント競技部門 増澤 比文2 0:14:00.4 第2位 宮本和奏(地球1) 0:14:27.8 第4位		【水泳競技(競泳部)】 第59回 日本選手権(25m水泳競技大会) FINAスイミングワールドカップ 2017東京大会 日時：11月13日(月)～15日(水) 会場：東京辰巳国際水泳場 男子 200mバタフライ 渡会舜(体育4) 100m個人メドレー 山田泰也(体育3) IPN決勝 54.39 3位		【男子バレーボール部】 第70回秩父宮杯全日本バレーボール 大学男子選手権大会 日時：11月27日(月)～12月2日(土) 会場：大田区総合体育館 他 筑波大30●朝日大 筑波大30●九州産業大 筑波大30●福山平成大 筑波大31●日本体育大 筑波大03●早稲田大 最終結果 準優勝 敢闘選手賞 中根聡太(体育4) セッター賞 小澤由輝(体育2) セッター賞 中根聡太		【硬式テニス部】 平成29年度 全日本学生室内テニス選手権大会 日時：11月30日(木)～12月3日(日) 会場：江坂テニスセンター (屋内ハードコート) 男子シングルス本戦 川橋勇太(体育2) ベスト8 牛島里咲(体育3) ベスト4 森崎可南子(体育3) ベスト4 女子ダブルス 牛島里咲・森崎可南子 ベスト8		【卓球部】 平成29年度 第66回全日本大学サッカー選手権大会 日時：12月13日(水)～24日(日) 筑波大21●常葉大学浜松キャンパス 筑波大01●東京国際大 準々決勝敗退		【男子バスケットボール部】 第69回全日本大学 バスケットボール選手権大会 日時：11月20日(月)～26日(日) 会場：大田区総合体育館 他 筑波大109●大阪体育大 筑波大72●新潟経営大 筑波大77●青山学院大 筑波大73●拓殖大 筑波大68●大東文化大 最終結果 準優勝 敢闘賞 杉浦佑成(体育4) 優秀選手賞 増田啓介(体育2) アシスト王 牧幸利(体育2) 17本		【体操部】 平成29年度全日本ラート選手権大会 日時：12月9日(土)～10日(日) 会場：つくばカピオ 男子 種目別直転 優勝 森本修多(院1) 個人総合 松浦佑希(院3) 第2位 富名腰真子(体育3) 第3位 種目別斜転 松浦佑希 優勝 富名腰真子 第3位 種目別跳躍 松浦佑希 優勝		【自転車部】 種目別直転 松浦佑希 優勝	
---	--	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	---	--	-----------------------------------	--



平成29年度

体育会賞特集



体操部



サイクリング部



剣道部



オリエンテーリング部

医学水泳部



硬式庭球部



牛島里咲

第29回ユニバーシアード競技大会2017
硬式テニス 女子総合3位

柔道部



石郷岡秀征

全日本ジュニア柔道
体重別選手権大会73kg級優勝



紫田理帆

全日本ジュニア柔道
体重別選手権大会57kg級優勝



能智亜衣美

全日本学生柔道体重別選手権大会63kg級優勝



野上廉太郎

全日本学生柔道体重別選手権大会73kg級優勝

女子サッカー部



水谷有希

第29回ユニバーシアード競技大会2017
女子サッカー2位

卓球部



坪井勇磨

ITTFチャレンジ・タイオープン
アジア21男子シングルス優勝
ITTFワールドツアー・ブルガリアオープン
アンダー21男子シングルス3位

バドミントン部



柏原みさ・加藤美幸

第29回ユニバーシアード競技大会
団体2位
女子ダブルス3位
第68回全日本バドミントン選手権大会
女子ダブルス優勝

水泳部



榎本遼香

第93回日本学生選手権大会水泳競技大会
飛込女子飛込優勝
女子高飛び優勝



岡野圭穂

第93回日本学生選手権大会水泳競技大会
競泳50m自由形優勝



平山友貴奈

第29回ユニバーシアード競技大会2017
水泳競技競泳50mバタフライ3位
400mメドレーリレー(第3泳者)優勝
第93回日本学生選手権大会水泳競技大会
競泳100mバタフライ優勝



寺門咲歩

第60回東日本医科学学生総合体育大会
女子SG優勝
女子GS優勝

医学スキー部

陸上競技部



江原宇宙

2017日本学生陸上競技個人選手権大会
ハンマー投げ優勝



辻川美乃利

天皇賜杯第86回日本学生陸上競技対抗選手権大会
円盤投げ優勝
第40回日本学生陸上競技大会
円盤投げ優勝



橋本春菜

第33回U120日本学生陸上競技選手権大会
混成競技優勝



森下大地

2017日本学生陸上競技個人選手権大会
砲丸投げ優勝



体育会委員長挨拶

皆さんこんにちは。体育会の翼を担っている組織です。勝利を求めることのみならず、楽しむことや仲間とともに達成感を味わうことといったスポーツの最も大切な本質も重んじます。体育会結成当初から続くこの伝統は決して軽んじてはなりません。

第42代となる私たちが執行委員は、これまで先代が残された素晴らしい伝統を継承するとともに、新しい時代の流れに対しても柔軟に対応したいと考えています。様々な目的を持った団体が集まった組織ですが、私たち執行委員は、体育会所属団体が少しでもより良い活動を行えるよう最善を尽くします。1年間何卒宜しくお願い致します。

(神田敬邦)



山下潤

第4回日中韓3カ国交流陸上競技大会2000m3位
第29回ユニバーシアード競技大会4x100mR優勝

バレーボール部 男女ともに インカレ準V



11月27日から12月2日にかけて第70回秩父宮杯全日本バレーボール大学男子選手権大会が行われ、筑波大学男子バレーボール部(以下男バレー)が準優勝を果たした。また、個人賞として敢闘選手賞(体育4年、愛知・星城高)、サーブ賞(小澤宙輝選手、体育2年、山梨・甲府工業高)の2名が選ばれた。

時を同じくして、11月27日から12月3日にかけて行われた第64回秩父宮杯全日本バレーボール大学女子選手権大会では、筑波大学女子バレーボール部(以下女バレー)も男バレーと同じく準優勝を果たした。個人賞はベストスコアラー賞(敢闘選手賞)に井上愛里沙選手(体育4年、京都・西舞鶴高)、ブロック賞に甲斐選手(体育2年、神奈川・川崎橋高)、サーブ賞に川上雄菜選手(体育1年、千葉・敬愛学園高)、セッター賞に万代真奈美選手(体育1年、岡山・就実高)、リベロ賞に和田実利選手(体育4年、大阪・金蘭会高)が受賞した。また、大学バレーボール界で将来を期待したい選手や日本代表に推薦したい選手が一般

の投票によって選出される「FUTURE6」に井上愛里沙選手と丸尾遥香選手(体育3年、大阪・金蘭会高)が選出され、男女合わせて個人賞に8名の選手が選ばれた。素晴らしい結果となった。今回、男バレー部主務の東郷美奈さんに文書を通じてお話を伺った。

今大会を振り返って、男バレーの渡辺さんは「目標である優勝を目指してやっていたのに、達成できなかったことは悔しい。しかし中央大学を破ったのは素晴らしい結果。」「個人賞に選ばれた女バレーの東郷さんは「6名の選手が選ばれたということは、個人の技術が十分であったから。」「多くの選手が個人賞をいただいたにもかかわらず、結果的に準優勝という形になってしまったのは、総合力としての不足があったのだと思う。」「振り返ると、最終戦で青山学院大と最終セットまでもつれ込んだことを何となく「このセットを落とさなければ」とプレッシャーの中で青学の方々が踏ん張る力が強かった。」「

持ちの面を焦ってしまったことが敗因。」と教えてくれた。男バレーの渡辺さんにも苦しかった場面について何となく「決勝の早稲田大学戦では、一点取ってもまた取り返され苦しかった。前日の中央大学戦は気持ちで乗り切った面があったが、決勝のあの時は気持ちだけでどうにもならないという感覚があった。」「と振り返った。最後に両チームの方々に今後の抱負を伺うと「今大会で、先輩たちは決勝のセッターコートで戦った経験という大きな財産と優勝という忘れ物を残した。この経験は必ず活かして、活かさないで後悔はしない。先輩たちがセッターコートに置いてきた『優勝』という忘れ物を拾うために様々な困難にも挑み続け、日々精進していきたい。」「(男バレー・渡辺さん)この年でとても多くのものを得られた。しかし、この一年共に戦ってきたチーム全員で日本を達成できず、準優勝という一番悔しい順位だった。こまめに来られたのは支えてくださった周りの方々のおかげであるので、感謝を忘れず四年生の残してくれたものを大切にしながら『突破』というスローガンのも

と、日本一の壁を突破できるように頑張りたい。」「(女バレー・東郷さん)と力強く語ってくれた。両チームが再びセッターコートで輝けるよう、今後の活躍に注目していきたい。 (蓮沼礼子)

編集後記

年が明けてから1ヶ月ほど経ってしまいましたが、あけましておめでとうございませう。本年も筑波スポーツを何卒よろしくお願い致します。さて、今号は今年度最後の新聞ということで、例年通り、体育会賞の特集ページを掲載しました。昨年も多くの団体、選手が全国や世界という舞台で結果を残しました。国内で活躍する選手を取材させていただく度に色々なことを学ばせていただき、そして、自分も頑張らなければと思うばかりです。今年もより多くの団体や選手の活躍を楽しみにしています。受賞おめでとうございませう。

卓球部・坪井 全日本学生選抜優勝



11月24日、25日に行われた第14回全日本学生選抜卓球選手権大会(通称選抜)において、男子部の坪井勇磨選手(体育3年、青森・青森山田高)が優勝した。卓球部でキープテンを務める坪井選手は、ナショナルチーム候補選手(以下NT候補)にも選ばれており、今後の活躍が期待される選手だ。今回は、坪井選手に今大会についてお話を伺った。

坪井選手は今大会の1カ月前に行われた第84回全日本大学総合卓球選手権大会(通称全日学・インカレ)の個人戦を重視し、そこに照準を合わせてコンディションを整えていた。しかし、結果はベスト16と目標に届かず迎えた今大会であった。「今回の大会では上手く切り替えることができた。全日学の前から積み上げてきたものが、全日学では上手く発揮できなかったものの、選抜で発揮出来たかなと思う」と二つの大会を振り返る。決勝の対戦相手は、高校の後輩である専修大の三浦選手。昔から知っている分お互いの手の内がわかった状態での試合は、精神的にも厳しい部分があった

という。1対3と坪井選手が迫る展開となる中、中盤から戦術を変えて流れをつかみ、見事逆転勝利を果たした。また準決勝で、今大会の一番の実力者と据えられていた同じ専修大の田添選手に勝っていたこともよかったと坪井選手は話している。

「3年目ですと大学のタイトルを、個々人というよりは」と坪井選手は話している。今大会の目標は、自分の目標を達成すること。中盤から戦術を変えて流れをつかみ、見事逆転勝利を果たした。また準決勝で、今大会の一番の実力者と据えられていた同じ専修大の田添選手に勝っていたこともよかったと坪井選手は話している。

今大会の目標は、自分の目標を達成すること。中盤から戦術を変えて流れをつかみ、見事逆転勝利を果たした。また準決勝で、今大会の一番の実力者と据えられていた同じ専修大の田添選手に勝っていたこともよかったと坪井選手は話している。

今大会の目標は、自分の目標を達成すること。中盤から戦術を変えて流れをつかみ、見事逆転勝利を果たした。また準決勝で、今大会の一番の実力者と据えられていた同じ専修大の田添選手に勝っていたこともよかったと坪井選手は話している。

第18回 リレーコラム

どうも、こんにちは。私は、今年の4月に入学しました。1年の松本樹です。時間がたつのは早いもので、もう2年が経つのかと感慨にふけりながらも、学期末の課題や試験、さらには新入生歓迎会の準備と慌ただしい毎日を送っています。さて、今回は私のもう一つの顔について書きたいと思います。

実は、私は筑波スポーツ編集部のほかに、筑波大学応援部の一員として活動しています。WINSにも所属しています。なぜこのような組み合わせになったのか、それは私がスポー

に、念願のバスケットでの応援をする傍らこうして記事を書いています。

私はスポーツを見るのは好きですが、やるのはあまり得意ではありません。ですが、スポーツをするのが苦手でも、スポーツに関わり楽しむ方法がたくさんあることを知っています。これから体育会の皆様を応援して参りますので、よろしくお願ひします。

次は編集員若護1年、蓮沼礼子さんです。

発行所/筑波大学体育会 (TEL.029-853-2589)
発行人/神田敬邦
編集/筑波スポーツ編集部 tsukusupo@hotmail.co.jp
責任者/松本 樹

i enjoy!

表彰台、独占。
The Change Maker

日本国
パラリンピック
サポートセンター
THE NIPPON FOUNDATION
NAGATSUKI SUPPORT CENTER

スペシャル応援ムービー
「The Change Maker」

冬季パラスポーツの花形！パラアルペンスキーの森井大輝選手、狩野亮選手、鈴木猛史選手が出演するスペシャル応援ムービーです。

YouTube にて公開中！こちらのQRコードからページに飛べます